



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会 御中

令和5年2月16日

岡山大学

岡山大学病院の院内案内3次元仮想空間マップを構築へ

◆発表のポイント

- ・ 病院内の複雑な構造を3次元仮想空間で再現したマップの構築を開始しました。
- ・ スマートフォンで簡単にアクセスが可能。
- ・ 今回、1階部分のマップが完成し、その他のエリアについても順次作成していきます。

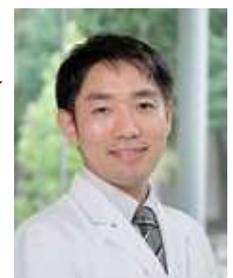
これまで、岡山大学病院の院内の案内マップは平面図によるさまざまなバリエーションで提供してきましたが、病院の規模が大きく、部署や検査室も多岐にわたるため、患者さんが院内で道に迷い、スムーズに目的部署まで移動しにくい状況がありました。また、車いす対応トイレや、自動販売機などの場所の検索も行いにくく、患者さんからは「不便を感じる」とのご意見もいただいております。

これらの問題を解決するため、岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）医療情報化診療支援技術開発講座の長谷井嬢准教授（整形外科）は、リアルな写真や動画の画像を用いて3次元仮想空間を再現したマップの構築を開始しました。このような案内マップのバーチャル化は、病院としては全国でも初のもとなります。

今回、患者さんの利用が多い外来診療棟、中央診療棟、総合診療棟の1階部分のマップが完成しました。その他の診療・検査エリアについても順次作成を行う予定です。

◆研究者からのひとこと

大学病院のような巨大空間を有する施設では、医療関係者であっても、場所の特定に難渋する程度の場合があるほど、構造が複雑で情報量も多く、紙やボード掲示などのアナログ媒体では情報の整理・表示が難しいことが課題でした。デジタル技術を用いることで、豊富な情報量を見やすく整理できるマップになりました。患者さんにとって、よりわかりやすく、ストレスのない病院受診となるよう、今後も情報の整理を進めていきます。



長谷井准教授

■発表内容

デジタル技術の活用は医療分野においても顕著であり、患者サービスのDX化は、医療機関の間でも推進されてきています。岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）医療情報化診療支援技術開発講座の長谷井准教授は、外来診療に携わる中で、病院内で患者さんが道に迷って行き先にたどり着けない光景を目にしたり、自分自身も他部署へ行き来する際に場所が分かりにくいと感じたりしていました。これまで岡山大学病院の案内マップは、各部署が作成する平面図によるさまざまなバリエーションのものを配布や掲示しており、病院として統一された患者さんや職員にとって分かりやす



PRESS RELEASE

いマップの作成が求められていました。

今回、長谷井准教授は診療が終了した夜間に、病院入り口から総合受付、診察室、検査室、病棟などが連なる1階部分の動線を写真と動画で撮影し、これらの空間をバーチャル化した3Dマップを作成しました。

完成したマップはこれまでのイラスト化されたマップと異なり、実際に目で見たままの写真のような画像で構築されているため、スマートフォンに表示される画像と自分が見ている景色を合わせながら移動することが可能です。また、院内の移動のみならず、自動販売機や車いす対応トイレの場所などを自分のスマートフォンで検索することもでき、初めて来院する患者さんに対しても迷いにくく分かりやすいシステムとなっています。

今後は、他のエリアの作成も進め、病院内で患者さんが立ち入るエリアでの3次元仮想空間マップの完成を目指しています。



■研究資金

本研究は、「令和4年度 岡山大学 Society5.0 研究支援プログラム」「令和4年度 岡山大学 次世代研究育成グループ事業」の支援を受けて実施しました。

<お問い合わせ>

岡山大学 学術研究院医歯薬学域
医療情報化診療支援技術開発講座
准教授 長谷井 嬢

(電話番号) 086-235-7273

(FAX) 086-223-9727



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

